TPDS NEWS

※ TPDS ＝ Tokyo Plastic Dental Society ＝ （一社）東京形成歯科研究会

Vol.96　**配信日**：2025 年 10 月 14 日　**配信元**：（一社）東京形成歯科研究会　事務局

北信ローカル　記事紹介

“ 繊細なススキの花の美しさ ”

相談役･理事　北村 豊 先生

当会の相談役･理事　北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介させて頂きます。

記事の内容につきましては、別紙※の通りでございます。

※ 別紙　出展元：「北信ローカル」　2025 年(令和 7 年)10 月 10 日　発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただいております(施設長より)。従来は、歯科･医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員･関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承願います。

〒114-0002　東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F
一般社団法人東京形成歯科研究会　事務局
Email:　info@tpdimplant.com
TEL:03-3919-5111／FAX:03-3919-5114

繊細なススキの花の美しさ

投稿

信州口腔外科インプラントセンター所長
北村　豊

秋の七草の一つにススキがある。ススキは陽当たりの良い草原に多く見られるものであるが、伝統的な日本の生活スタイルが大きく変化し、茅葺きが行われなくなって、屋根を被っていた主たる材料のススキが用いられなくなったこともあり、秋の刈り取り、冬から春先にかけての火入れが長年の間、日本では行われてススキの草原の維持をしていたが、最近ではほとんど実施されなくなってきたことにより草原の喪失、そしてその〝被害者〟の一例を挙げるなら、草原に生えるマメ科のクララを食草としているオオルリシジミの絶滅危惧化も急速に進行していってしまっている。

日本の原風景といってもいいススキではあるが、花穂の時期によっていろいろな美しさを見せてくれるのも私にとっては恒例の毎年の楽しみとなっている。

ススキの花の季節は晩夏～秋であり、ススキは日本人にとって、とても馴染みのある植物のはずなのだが、今回は多くの人々が見たことが無いであろう「ススキの花」の写真を掲載した。花といっても花弁（俗称：花びら）の無い花も多く、今年は高値で大きな騒ぎになった米を稔らせるイネ科の植物は、このススキも含めて花弁は無い。その他にも「これは花弁に間違いないでしょ！」と思われ誤解されている植物も多いが、私は自分で疑問を持ち自分で調べてみることを忘れた現代社会の多くの老若男女の人達に、自分自身にとっての〝発見〟の喜びを見つけて退化しつつある脳細胞に刺激を与えてあげていただくことを望むことに留めておこう。

さて、イネ科植物は花弁は無いと書いたが、種子植物であり、花弁は無かろうが花は生殖器官で、雄しべと雌しべは持っている。

日本国民の多くが待ち望むソメイヨシノには開花宣言があるように、「生物季節観測指針」というものが、気象庁によって作成され、記録が続けられていっている。この生物季節観測の目的は、気象庁のこの指針によれば「植物の状態が季節によって変化する現象について行う観測をいい、その目的はその観測結果から季節の遅れ進みや、気候の違い、変化などを総合的な気象状況の推移を知ることにある。」と記されている。

この気象庁の作成した指針の中には、ススキの開花の観測方法についても記されていて、「ススキの開花日とは葉鞘（ようしょう：単子葉植物の葉の基部がさやのように茎を包んでいる部分）から抜き出た穂の数が、穂が出ると予想される全体数の約20%に達したと推定される最初の日」となっている。

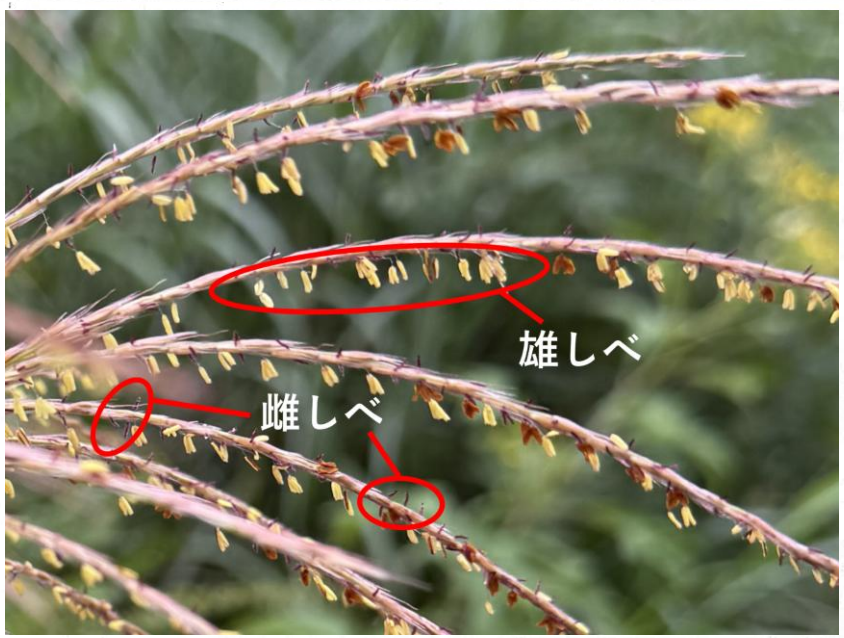
私がここに掲載した写真を志賀高原で撮影したのは8月24日で、鈴なりの黄色の雄しべ（葯）と茶褐色でブラシのようで棒状の雌しべが見られた。

花粉を一杯つめた袋状の葯（やく）とも呼ばれる雄しべは、とても細くて短い柄のような構造物で吊り下げられていて、微風にも一つの穂から吊り下がった多数の雄しべが小さいながらも一斉にダンスをしているかの如く、揺れ動く姿にはとても感動すると同時に、私は得もいわれぬ風情を感じてしまう。

花の時期が過ぎて綿毛と種子をつけて秋の草原を真っ白に染めるススキも素敵ではある。しかし、私にはそのようなマクロの世界よりこのミクロの雄しべに惹かれてしまう。微少な動きではあるものの、これからの若さ故の躍動感を感じてしまうからであろうか…。

老若男女の皆様、そして最近よくニュースソースになっておられる教職関係の方々、ススキの花は植物学的には完全な生殖器官ではありますが、見ても写真を撮影しても罪に問われることはありません!!

是非ススキの花が咲いている時にこの身近な植物の魅力を観察して下さることを強くお勧めする。



ススキの雄しべと雌しべ
2025年8月24日16時　志賀高原にて撮影